農学生命科学研究科附属小石川樹木園万年塀改修工事立会調査報告

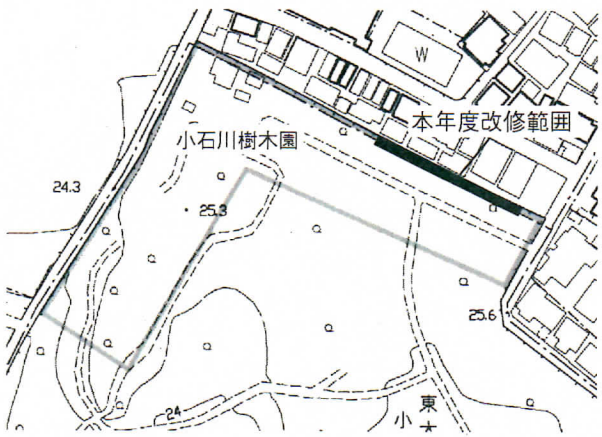
所 在 地　東京都文京区白山３－７－１（文京区No.81 小石川御薬園跡・原町遺跡内）
調査期間　2011 年４月１日
工事面積　30㎡
調査担当　成瀬晃司
調査結果

農学生命科学研究科では、附属小石川樹木園万年塀の老朽化に伴う改修を計画した。現万年塀は、180cm 間隔の支柱間にコンクリートパネルをはめた構造で、支柱部は幅約 90cm、深さ GL －約 100cm の掘方内に幅 35cm、奥行き 75cm、高さ約 40cm を測る直方体の基礎を埋設し、その上にコンクリートパネルを固定する支柱が設置されている。また塀パネル地中部は GL － 30cm にある。

今回の改修は、現況の万年塀を解体し、奥行き 60cm、深さ GL － 40cm を測る掘方内にＬ字形基礎を埋設する構造で、長さ 50 ｍが本年度改修対象となる。よって設計根切り深度以下の現況万年塀基礎は、構造把握のために取り上げた１箇所を除き、設計根切り深度にて支柱部を切断し、そのまま残された。

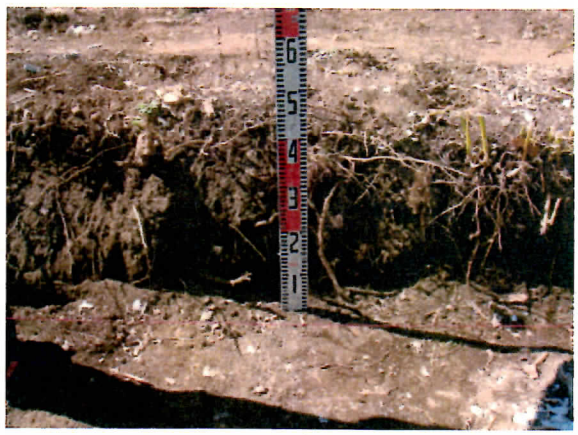
根切り（GL － 40cm）完了を受けて、立会調査を実施したところ、床付け面の土層は、一面ローム粒を多量に含む暗褐色土で、玉石、コンクリート砕片も含まれていることが観察され、工事範囲の表土下には近代以降の盛土層が存在していることが確認された。

立会調査の結果、今回の改修工事の根切り深度は、全て近代以降の盛土層範囲内で収まっており、近世以前の遺構面には達していないことが確認された。



立会調査範囲位置図（1/2500）

立会調査地点近景


根切り土層断面